

平成 28 年度
全国学力・学習状況調査の結果と分析

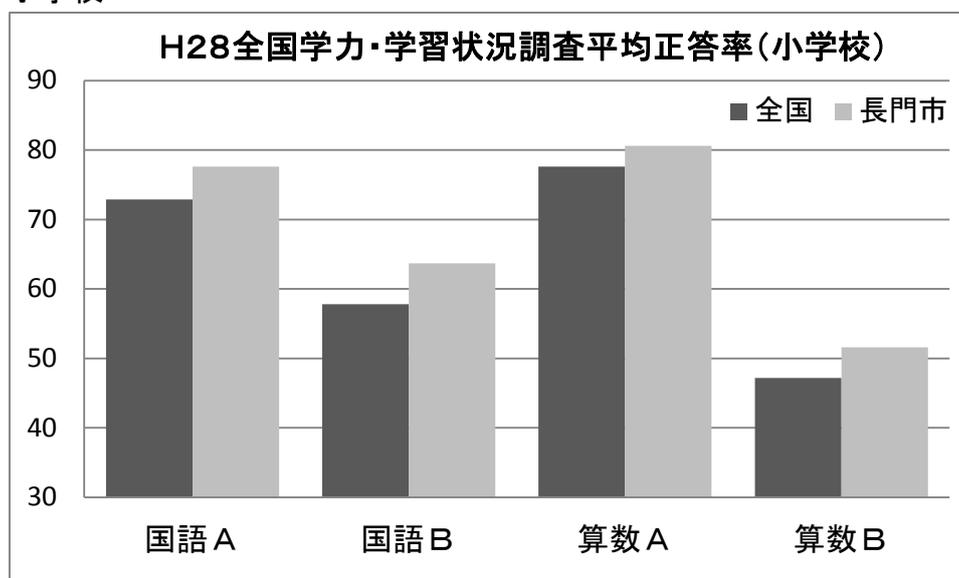
長門市教育委員会学校教育課

学力調査結果についての棒グラフの見方

- 調査対象は、小学6年生と中学3年生で、平成28年4月に実施。
- 学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

1 学力検査の結果（○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点）

（1）小学校



国語 A，国語 B，算数 A，算数 B，すべての科目において、全国平均を上回っている。平成 26 年度，平成 27 年度と 2 年続けて算数 B は全国平均を大きく下回っていたが，本年度はよい結果を残した。

【国語】

- 漢字を正しく読む。 ○漢字を正しく書く。
- ローマ字を読む。 ●ローマ字を書く。
- 目的に応じて、質問したいことを整理する。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。
- グラフを基に、分かったことを的確に書く。
- 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える。

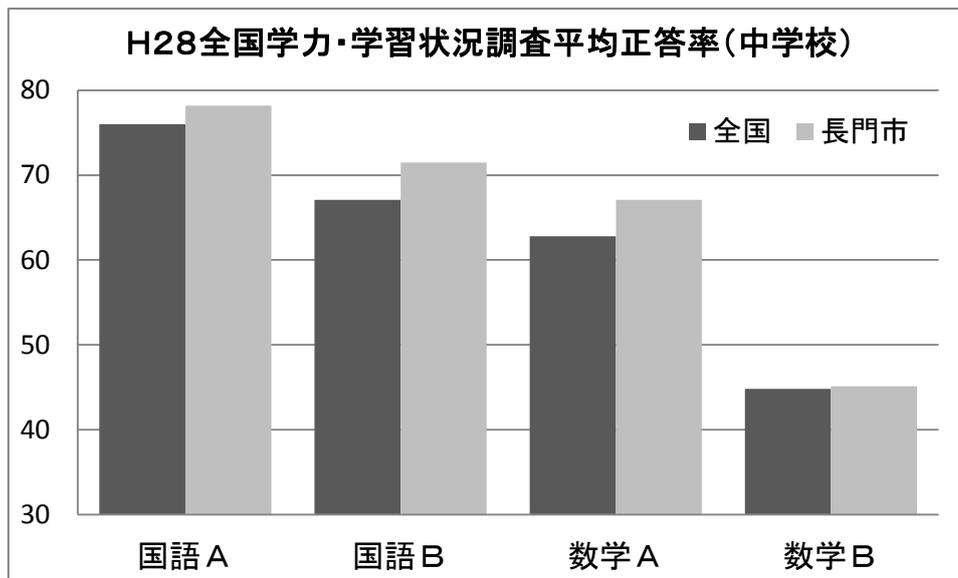
【算数】

- 除法における計算の確かめの方法を理解している。
- 繰り下がりのある減法の計算をすることができる。
- 末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる。
- 不等号を理解している。
- 1 を超える割合の百分率で表す場面において、基準値と比較量の関係を理

解している。

- 示された式の中の数値の意味を解釈し，それを記述できる。
- 示された除法の式を並べてできた形と関連付け，角の大きさを基に，式の意味の説明を記述できる。

(2) 中学校



小学6年時(平成25年度)には国語A，国語Bが全国平均を下回っていたが，学力を伸ばし，本年度はよい結果を示した。

【国語】

- 文脈に即して漢字を正しく読む。 ○文脈に即して漢字を正しく書く。
- 文の成分の照応について理解する。
- 文字の形や大きさ，配列に注意して書く。
- 登場人物の言動の意味を考え，内容を理解する。
- 相手や場に応じた言葉づかいなどに気を付けて話す。
- 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け，要旨を捉える。
- 目的に応じて必要な情報を読み取る。

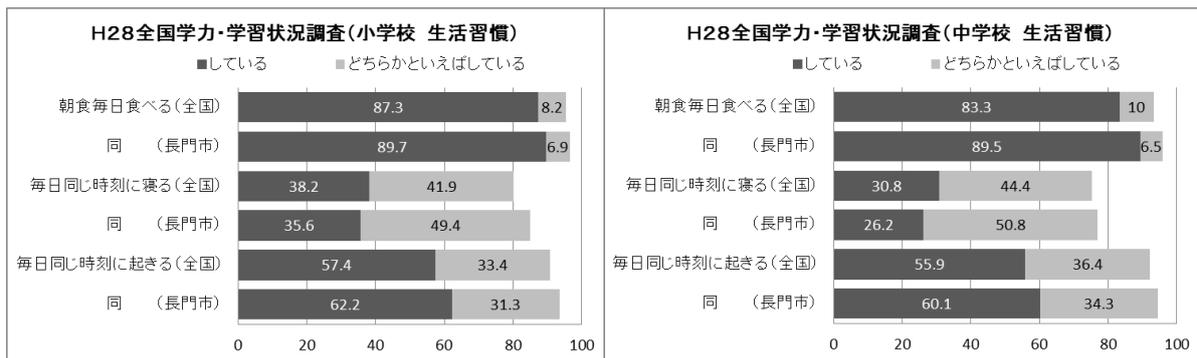
【数学】

- 正の数と負の数の加法の計算ができる。
- 整式の加法と減法ができる。
- 2つの符号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り，2つの二元一次方程式で表すことができる。
- 見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる。

- 測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解している。
- 加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる。
- 筋道を立てて考え、証明することができる。
- 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる。

2 児童・生徒質問紙集計結果 (○：良い点 ●：課題がある点 ◇：その他)

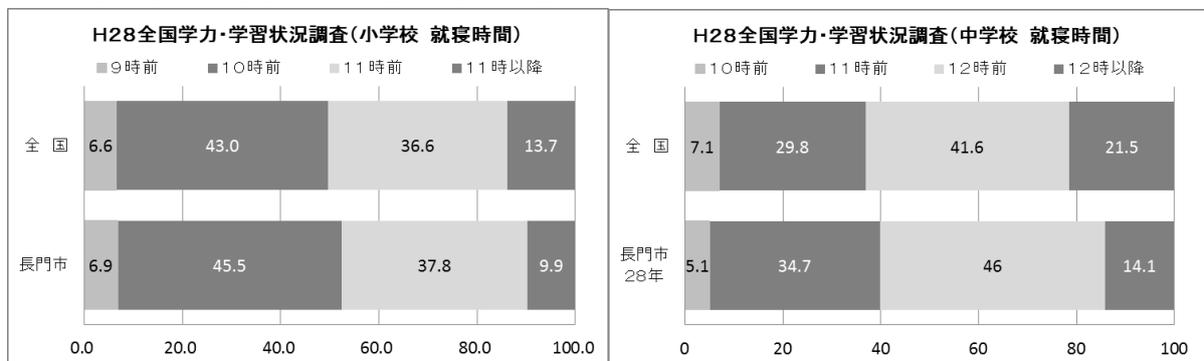
(1) 生活習慣



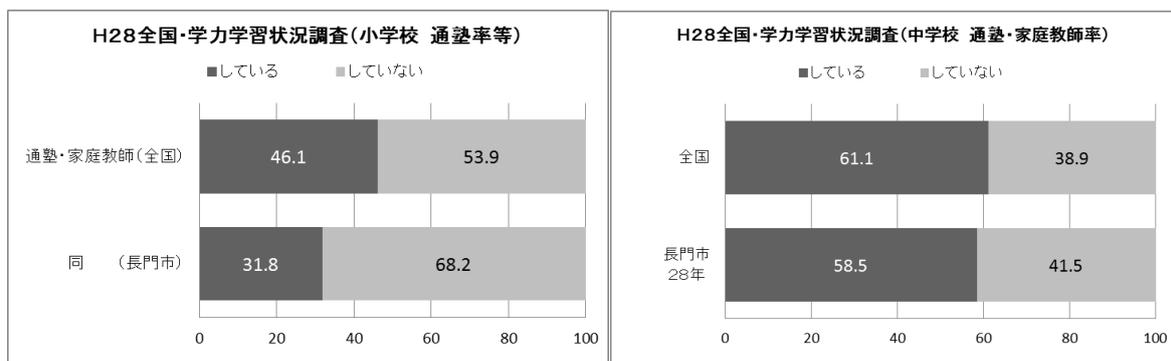
○朝食を毎日しっかりと食べている児童、生徒が多い。

●定刻に就寝する児童、生徒の割合が少ない。

○定刻に起床する児童、生徒の割合がやや高い。

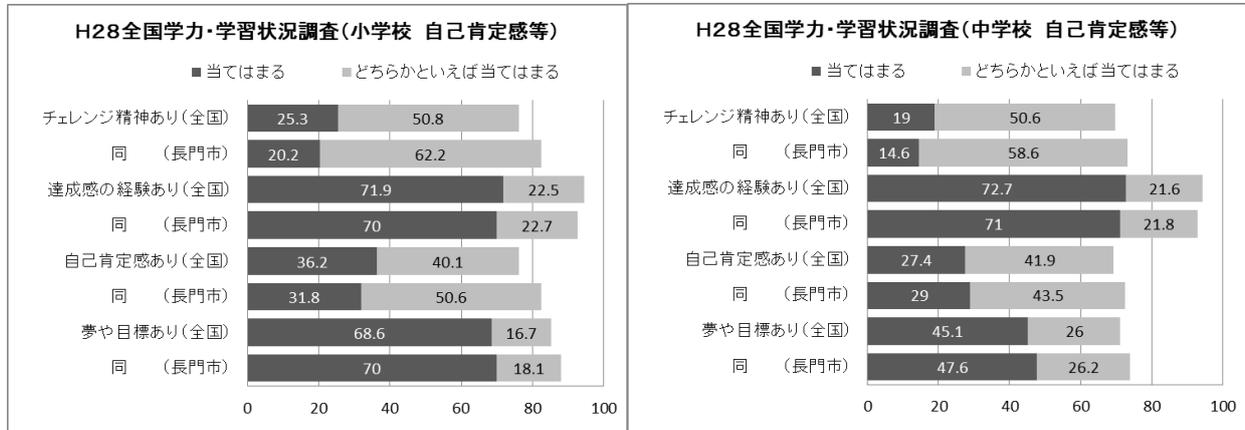


●就寝時刻が小・中学校ともに遅く、特に、中学校では、約60%の生徒が11時以降である。



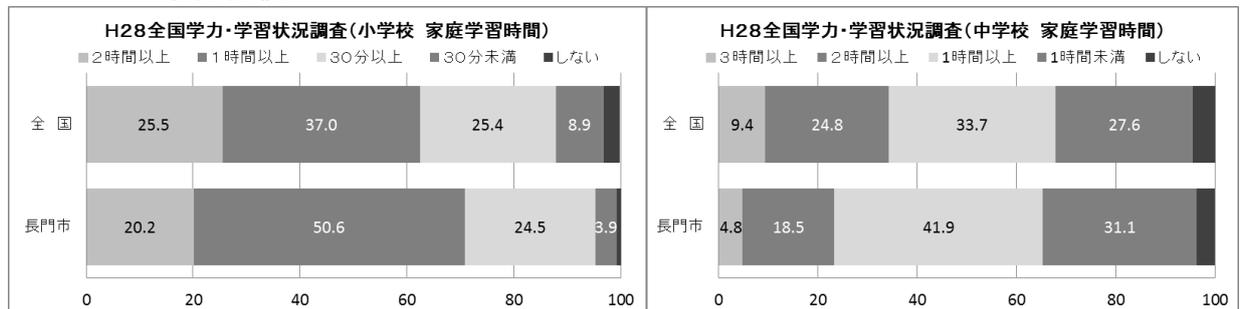
- ◇小学校では、通塾率が31.8%とかなり低い。
- ◇中学校では、昨年度よりも通塾率が10%以上上がり、全国と変わらない。

(2) 意識や経験

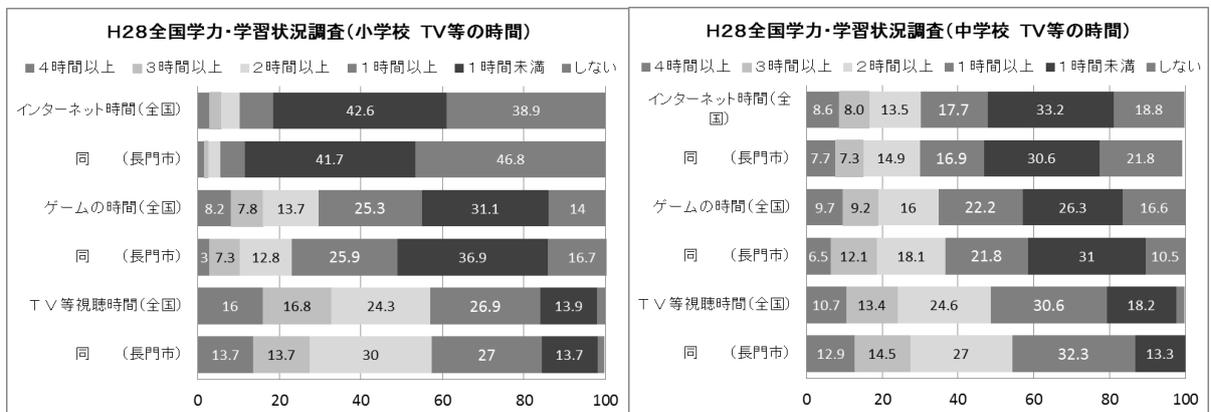


- チャレンジ精神がある児童・生徒がやや少ない。
- 自己肯定感や達成感を味わった児童・生徒がやや少ない。
- 夢や目標をもつ児童・生徒がやや多い。

(3) 学習習慣

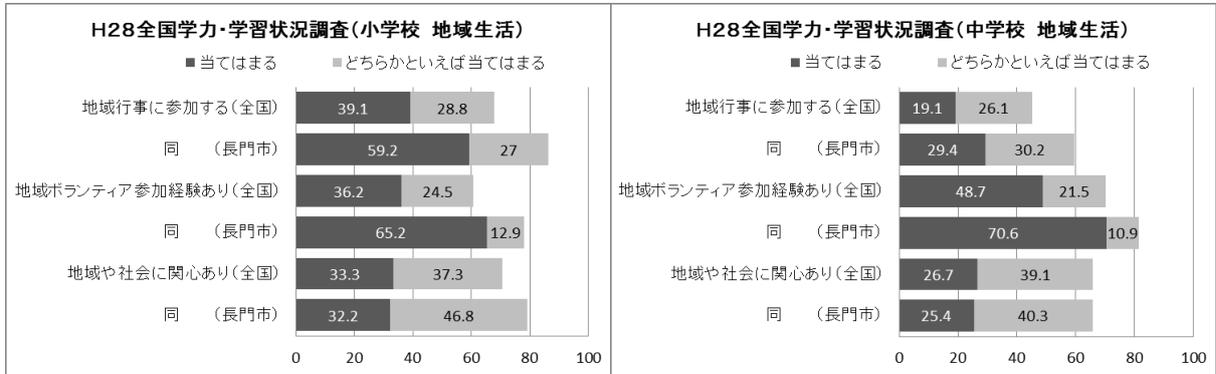


- 小学校では1時間以上、家庭学習を行っている児童の割合が昨年度より増加している。
- 中学校では、2時間以上家庭学習する生徒の割合が低い。



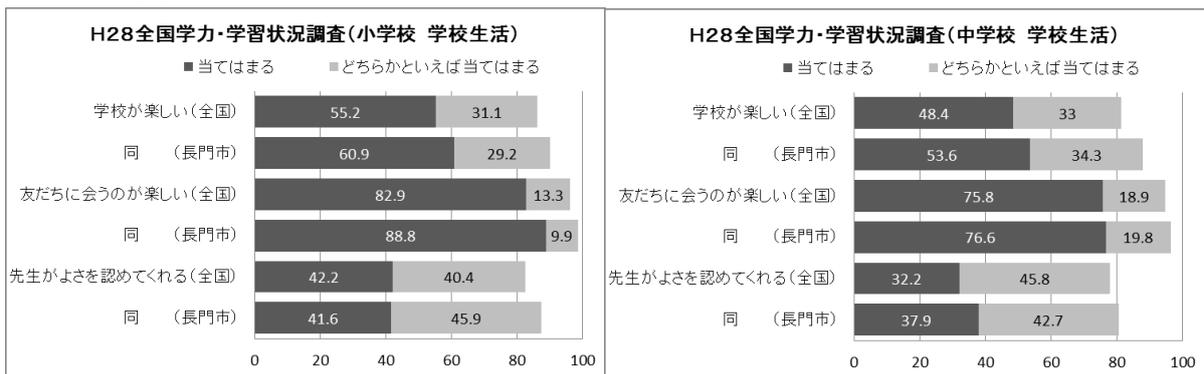
- インターネットやゲームの時間が、中学校になると増加する。
- TV等視聴時間が2時間以上の児童・生徒の割合が高い。

(4) 地域生活



- 地域行事に、積極的に参加する児童・生徒がかなり多い。
- 地域ボランティアに参加したことがある児童・生徒がかなり多い。

(5) 学校生活



- 学校が楽しいと感じている児童・生徒が多い。
- 友達と楽しく学校生活を送っている児童・生徒が多い。
- 先生が自分のよさを認めてくれていると感じる児童・生徒が多い。

3 今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- 学校全体で成果と課題を共有し、管理職を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- 市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組を検討し、各校のプランの見直し・改善を図る。
- みすゞ学園ごとに1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業を行う。その成果を、市教委主催の研修会で共有し、市内の学校に実践を広めるとともに、小・中が連携しながら学力向上を推進する。

○学校運営協議会で自校の結果の概要と今後の取組について確実に説明し、改善策を検討するとともに、家庭や地域との連携を図り、地域とともに学力向上に取り組む。

○個人票を保護者に配布し、家庭との連携を図る。

(2) 指導方法の工夫改善

○各校に長門市がめざす「わかる・できる」授業像を明確に示し、校長会や研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。

○「授業改善リーダー育成研修会」を開催し、各校に授業改善の中心となる人材育成を行う。

○指導主事の地区担当や外部講師による効果的な指導方法の普及を図る。

○国語科の基礎基本の定着及び算数科や理科で「理由やわけを書く」指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。

(3) 学習環境の整備

○みすゞ学園ごとに、学力向上推進リーダー、授業改善リーダー、教育力向上指導員等が中心となり、小学校と中学校が連携した研修や交流を推進する。

○子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりの推進や幼保・小・中の連携を充実させるためのカリキュラムづくりを推進する。

(4) 学習習慣の確立

○家庭との連携を推進し、「家庭学習」を充実させるための手だてを各校で検討し学習習慣の定着を図る。

○県が作成した問題を活用したり、良問に数多く取り組ませたりする等、家庭学習の充実を図る。

○長門市全小中学校での「生活習慣マネジメントサポート事業」の実施により、睡眠を中心とした生活習慣の改善を図り、自主的な学習への取組を図る。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

・ 国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」

・ 山口県教育委員会 義務教育課 「全国学力・学習状況調査」